第二十五号　寺崎組新聞　1996年（平成8年）6月吉日（日曜日）　（隔月刊）

寺崎組新聞

発行所　寺崎組新聞社

おおいに飲んで大井川！

第五一回組会報告

G・Wの喧騒も過ぎ去った五月のある日、くたびれまくったXLRに鞭うって東名をひたすら下る。集合地の金谷駅前に到着すると、ちょうど大井川鉄道の蒸機列車が発車の時を迎えていた。説い気笛とともに、C11はゆっくりとホームを離れていった。

今回の面子は税金、地下鉄、うなぎ、赤貧森川、牧童木下と小生。まずは大井川沿いに国道を遡る。ハスラー400を駆る赤貧もぴったりと付いてくる。一本目の家山林道は舗装化工事進行中。伐採用と思われるヘリポートを兼ねた公園でひとまず一服。春野町に入り短いダートを一本ずつ丹念にたどっていく。旅の一日は短い。そろそろ陽が傾きかかってきた。R362に出たところで組長チェック済みの田舎コンビニ（よろず屋とも言う）にて買出し。はっきり言ってろくな物は無い。仕方無く缶詰、レトルト、しなびた野菜etc.を仕入れる。買出しを終えてウダウダしていると店の前にライトバンが横付けされた。ドアが開けられ続々と商品が運びこまれる。ヤラレタゼ！まあ、そんな時も有ります。

気を取り直し、再び山の中へ。組長が眼を着けておいた野宿地はキャンプ場の駐車場になっており、人がわんさかいてペケ。そのまま引き返して寝ぐら捜しに専念する。幾度かの引き返しを繰り返し、漸く行き止まり林道の終点に今宵の宿をしつらえる。

後はまあ、いつも通りに事は運んで行くので以下省略。

そしていつも通りに朝は来る。一旦国道へ戻り、杉川林道のゲートをかすめて標高を上げて行く。川沿いの谷を幾つものタイトコーナーで越える。久し振りに引っ張り出して来たらしい初期型XT250の牧童もそつ無い走りで歩を進める。昼飯用の水を源流にてチャージ。人里に降りて千頭駅前にて買出しとなるが、またもな～んも無し。辛うじてラーメンとビールを手に入れて山の中へ。初夏の陽射しの下、うるさいガソリンストーブをゴーゴー言わして腹拵えも終了。つつが無く組会の幕は閉じたのであった。それから群馬までの道はひたすら長かったのである。チャンチャン！

記　酔金

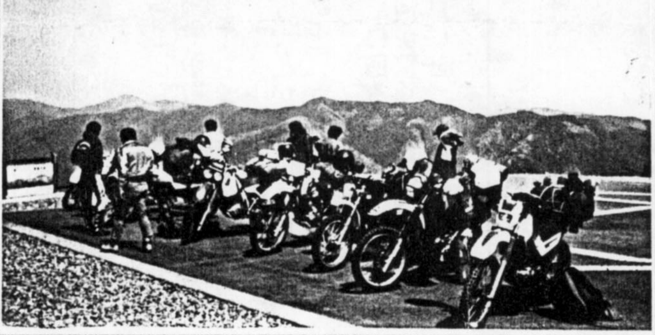
思い出のオフ車達

ホンダ
*XL250S
友人の暴走族からエビガニとバカにされた。
*MT50
50ccでは大きな車体、河原でMXごっこした。
*TL125
遅かった。尻痛かった。
*TLR200
筑波山が遠く感じた。でも廃道は楽しかった。
*XLX250
排気音が好きだった。なぜかキャブが、2コあった気がする。
*XL250Rパリダカ
一番長く乗った。好きだった。いろんな所へ行った。ラリーレイドモデルのはしり。
*XLR BAJA
やっと買った中古のBAJA。忙しくて余り乗ってない。
ヤマハ
*GT50ミニトレ
オフは走らず、CB50のフォークをつけてチョッパーになった。
*DT125
ウイリーごっこして何回もリアフェンダーを割った。
*85YZ125
CRより乗りやすい。友人が筑波サーキットでこかした。
*81YZ80
友人がGTチョッパーにエンジンを乗せ、バク転した。
MR50
フロント、リアフェンダーが鉄だった。結構速かった。
スズキ
*ハスラーTS90
大きく感じた。初めてのバイク。今でも欲しい。
カワサキ
*KM90
丸タンクが、好きだった。初めて時速100kmを知った。
*KL600
ドタドタバッタン重かった。
*89KX80II
エンデューロにいっぱいでた。3位2回、4位2回、5位1回の成績だった。

by　ナース青木

○上の写真、酔金の左隣の方は飲みかけの焼酎を持って陣中みまいに来た27号荒浪さんでした

○ここは家山林道の展望台。C11の走り姿が見おろせる



ウナギのバイク屋日記　後編

バイク屋に勤めはじめて1年ちょっとが過ぎた。期間こそ短いが、普通でないこのバイク屋のお蔭で普通の店よりも数倍のノウハウと様々な出来事に出会った（辞めてはいないのでまだ続いてます）。私が体験したそれらの出来事をこのコラムで紹介していきたいと思う。もっともいつまで続くかどうか分からないが・・・。

まず始めに、各社のバイクをいじってみた上でわかった事は、偏見も大いにあるが某社のはいじりたくない。軽四はあれだけいいものを造っておきながら、二輪は？なのである。性能は良いのだが、整備性が？？。スクーターはもっとも苛酷に扱われるバイクなのだが、リアタイヤを交換するのにエアクリーナーボックスを外さなければいけない。エンジン単体なら脱着は楽なんだけどねぇ、ドライバーが入らないよこれ。それに今時レギュレターがパンクするかあ。ーよって、某社のが入ってくるとうがああ～となる。若者に人気で安いから売れてるんだなこれが。とほほ。まあもっとも某社に限らずスクーターなんて物は、整備性を犠牲にした乗り物なんで仕方無いのだが。

また、ユーザーのほとんどがタイヤの空気が抜けているのにも気付かずに、走り回っている。規定圧の半分以下になっていても、知らずにそのまま乗っているのもいるから怖い。修理やオイル交換で入ってくると、まず空気圧のチェックをするようにしている。スクーターは大抵ぺったんこでスリップサインがきえて無くなっている、ひどいのになるとカーカスが全面見えているのに平気で走っている。銀行のカブも同様で、それに輪をかけてチェーンをガチャガチャいわして外れるまで気付かない。あの連中、学習能力はないのだろうか。

愚痴ばかりになってしまったが、という訳で、皆さん空気圧はこまめにチェックしましょう。

うなぎ石原

役に立たないオーストラリア事情①

J・KING

バックオフ連載中ブルダスト瀬戸のオーストラリア事情もだんだんネタが無くなってきたようで3月号では一般ライダーからの情報になっとりました。で、こうゆう情報が雑誌にでるとすぐ鵜のみにする方もいらっしゃるので、私が少し補充してみましょう。

①工具について

日本製はcm表示、豪州製はインチ表示、ーこれは初めて知りました。私は向うでトルクレンチを買いましたが、これは安売り物で中国製でしたが、メートルとフィート両方ありました。インチサイズの六角レンチも見たことないです。CRCやチェーンオイルは大都市の大きなバイクショップ・用品店に行けば小さい物もあります。まあツーリング途中で入手するのは難しいかもしれません。現地でバイクを買ってツーリングをスタートするなら大都市が出発地になるでしょうから、最初にしっかり準備しちゃえば良いわけですよ。しかし、オーストラリアを走っているバイクも8割がた日本車です。バイクショップでどこに行けば必要な工具が入手可能か聞けば教えてくれると思うんですけど。それから24mmとか32mmなんてデカイのは日本だってどこにでも売ってるってもんじゃないでしょう。車載工具だったら24mmでもツーリング用には出来るけど、メガネレンチならそらあんたデカくて重いのは当り前でしょう。

②オイルについて

工具を貸してくれるところもあるので、オイル交換もオイル代だけで安く上がります。オイルそのものも1ℓ缶でA$30ぐらいだったかな。やはりいいオイルは高いです。私の好みはBPの4ストモーターサイクル用でした。自動車用はどこでも入手できますが、バイク用は大きなBPショップ（日本でいうとガソリンスタンドとスーパーが一緒になった店）で買ってました。本当は毎回バイク用オイル入れたかったんだけどねェ

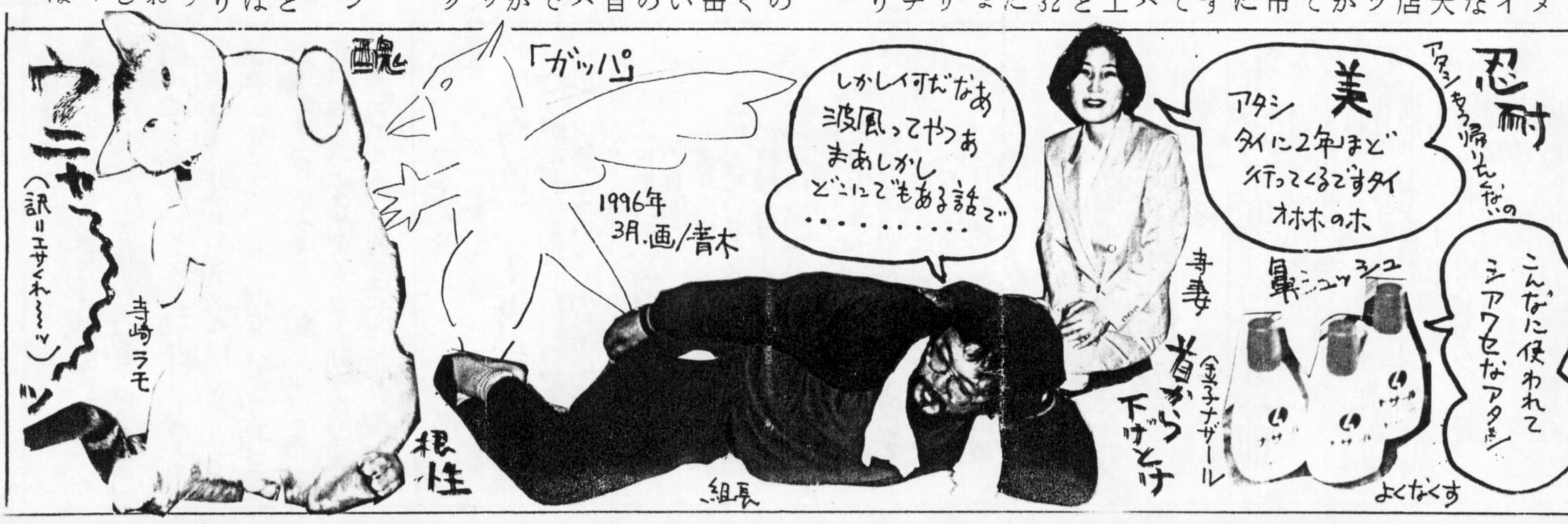
③ガソリンについて

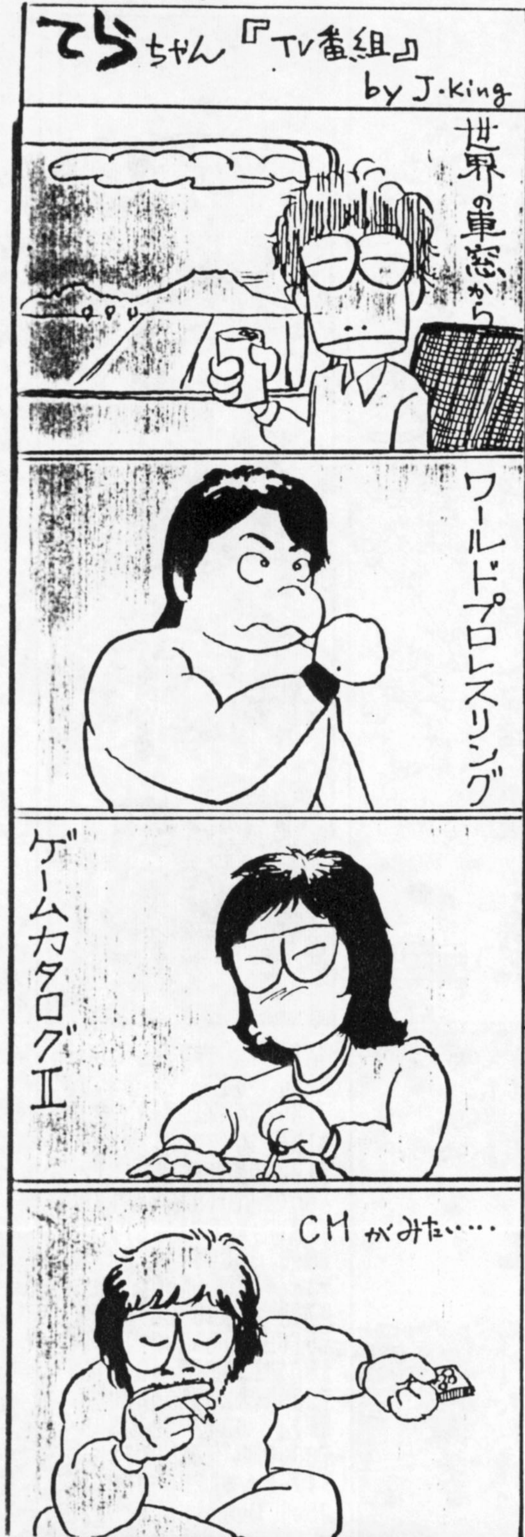
今でも私がよくわからないのがアンレデットとスーパーの違いなんです。本当にこれはレギュラー・ハイオクと考えていいのかなあ。レッドLeadとは鉛のこと、アンUnは否定の意。つまりこれは無鉛ガソリンですよね。ということはスーパーは有鉛ガソリンか？おいおい今時有鉛はないだろうとおっしゃるでしょうが、オーストラリアじゃまだまだ60年代・70年代ぐらいの車は現役でたくさん走ってますからね。

日本製バイクのタンクには、アンレデットオンリーとかステッカーが貼ってあるからそれを入れていれば間違いない。バイク雑誌だったらAMAあたりに国際TELして、本当のところどうなのか調べて欲しいですね。TEL代くれれば私が調べて上げますよ～、瀬戸さ～ん。

Unlead 'a 形容詞 '無鉛の（～gasoline）
三省堂デイリーコンサイス英和辞典より

今日のワケわからんコーナー


忍耐
美
アタシもう帰りたいの
アタシ タイに2年ほど行ってくるですタイ オホホのホ
こんなに使われてシアワセなアタシ
鼻シュッシュ
よくなくす
寺妻
首から下げとけ
（金子ナザール）
組長
しかしイイオだなあ 波風ってやつあ まあしかし どこにでもある話で・・・・・・・・・
「ガッパ」
1996年3月.画/青木
醜
根性
寺崎ラモ
ウニャ～～ッ
（訳＝エサくれ～～ッ）


てらちゃん『TV番組』
by J.King
世界の車窓から
ワールドプロレスリング
ゲームカタログⅡ
CMがみたい…

草原、遥かなり。

第九回　寺崎　勉

八、国立公園

キャンプ地に集まってしまった子供達に「もう遅いから帰ろう」と日本語で言っても通じるわけもなく、平松隊員がわざわざ日本から持ってきた子供だましの手品セットを取り出して実演しても火に油を注ぐがごとし。

「ゲルママン、ゲルパパン、フ～ン」と両手を合わせて顔の横にやり寝るジェスチャーをしても、子供に受けるだけだ。それでも連中は動物に近い。眠くなれば、三々五々帰ってゆく。

翌朝、キンチョーやらチキンラーメンやらの柄がついた柳沢隊員のパンツがヒラヒラするキャンプ地。お目覚めは鳥の声でもなく、眩しい太陽でもなくワイワイキャッキャッと朝から元気に押し寄せてくる連中の声だった。

皆、きらめく笑顔の「サンバイノー」（モンゴル語で、お早よう・こんにちわ）。その中の一人が、ボーッとタバコをふかしている私のテントに寄ってきて、昨日ねだられたビールの空き缶にヨーグルトを入れてきてくれた。

私も、その頃になると酸っぱいだけのヨーグルトにも慣れてきていた。

クーッと眉間にくる酸っぱさが目覚めには最高だ。美味しい。

少年よ有り難う。バエルタッ。

でも今日は何だか人数が多い。いつもの少年や少女やノッポやチビやハナたれのガキに加え、赤ん坊を抱いた洋服姿の奥さん、真新しいデールを着たじいさん、馬に乗った青年、川を渡ってきたヤク、犬、ロシア製のバイク・イーチ乗ってきた髭の紳士、などなどである。我々のキャンプ地が、どこかのゲル集落のようになっている。

それぞれ勝手に座り、輪になり、タバコをふかし、バイクをさわり、なんだかんだ言っている。

カメラマンの沢海氏がいつものようにタンを吐く大きな音とともに起き出すと、赤ん坊を抱いた奥さんが近づき、「ゾルガ（写真）ゾルガ」と言ってるらしい。そこは天性のカメラマン、ポラロイド写真を与えるかわりに被写体の方から近づいてくるのだ。張り切らないわけにはゆかない。

一枚撮ると、我も我も。馬に乗っているところを撮れだとか、じいさん単体で一枚と孫どもと一緒でもう一枚、だとかでキャンプ地は大撮影会々場となる。

そんな喧騒をよそに、通訳のバンザイ氏が髭の紳士と何やら深刻そうに話している。聞けば「テラサキ、サン、困りマシタ。なぜならば～・・」バンザイ氏はいつも「なぜならば～」を使うのでもう耳が慣れてしまった。

要約すれば、髭のオヤジは国立公園の管理役人で、ここは公園内で許可無しでキャンプしたから罰金を払え、ということらしい。

どこからどこまで国立公園なんだか知らないけれど、表示も無ければ柵も無く（考えようによっては全部が公園のような気がする）キャンプ地は温泉病院の先生に案内してもらったはずなのだが。

まあとにかく日本円に直すと一人45円ほどづつ払うことになる。あまりに高いと思っているバンザイ氏がさらに交渉すると、まけてくれたというから国の役人もたいしたことはないというか、金を持っていそうな外国人から金を巻き上げろということなのか。

それとも私腹を肥やしているのか。

まける代わりに要求があった。我々が乗っているバイク・日本製のヤマハセローに乗せろという。

国の役人というよりは、すっかり怪しい髭オヤジと化したその男は満面の笑み。セローのまわりに集まったジジイやガキは羨望の眼差し。セル一発でブロロン、丘の上まで一気に駆け上がって帰ってきたオヤジは「サイン（素晴らしい）サイン」と言って親指を突き立てる。まるで空飛ぶ円盤にでも乗ったような表情だ。

そんならというんで私も役人のイーチに乗せてもらう。重くて頑丈なキックを踏むとブルルンと気だるそうにエンジンが目覚める。2サイクル単気筒、クソ重いクラッチを握りチェンジを入れれば、クラッチを放してもいないのに走り出す。スロットルを開けても加速しない。チェンジを2速に変えても変わった気がしない。

これじゃああの丘に登る気もおこらない。ボロボロのセローだけれど日本製バイクの性能の高さに改めて驚く。

とりまきがワイワイガヤガヤする中、出発準備を終え、あの丘を一気に越える。振り向けば、あのガキどもが小さな点になっている。バエルスタ。

モンゴルからの手紙

日が沈む草原の弟から、日が昇る大海の兄への手紙。

お元気でお過ごしでしょうか？

お返事をもらってから幾度も日が沈んだり、昇ったりしてしまいました。今UB（注　ウランバートルの事）では＋20℃＋22℃温度、花が咲くには早すぎるのに原始草原のどこかに咲き始まったでしょう。

四季が独りでに回る間モンゴルとモンゴル人達の生活が驚くほどはやく変わっています。東京にとっても同じこと思います。

鮮やかに書かれたお手紙を読んで本当のこととは、なかなか信じられないほどうれしかった。

とれた橋でも両側のほうで役に立つと思います。日本でモンゴルを紹介し、モンゴルで日本を紹介したいと思います。だが日本でモンゴルをどういうふうに紹介するのがよくわかりません。

モンゴルで日本を紹介するためには、伝統的な風習とか現代の基本的な問題を訳して見たいと思います。従って出版された証明書を送っていただけませんか？

今モンゴルで日映画『おしん』を国立テレビで放送しているのはモンゴル人に、とって日本人の生活がわかるようになることに貢献していますと思います。私は日本語をやって習うかたわら日本人の考え方をやってわかるようになって何か大きいことを、しようと思います。

こせこせした東京から離れて一週間でもモンゴルの原始境で休もうとすれば、私は招待してできるだけ、いろいろ、お手伝いしたいと思います。私はお金を取らないです。

春　五月12日の日曜日に、UBから日本語で放送するモンゴルラジオでモン歌をあいさつとして、したいと思います。

春はご健康が変わりやすいので、お体にお気をつけて下さい。

沢海さんとご一緒の皆様に挨拶を渡して下さい。

尊重された寺崎様・

尊重したKhurts endene・

1996年4月29日

あとがき

これはモンゴルツーリングの際、通訳助手をしていた、ホルツァさんからの手紙を原文に忠実に掲載した物です。多少文章としておかしい所も有りますが、この人の朴訥で誠実な人柄が伝わって来ると思います。

組長執筆中雑誌

○オートキャンパー　八重洲出版　毎月15日発売

大日本絵画

○CCV　季刊　22号4月末発売

○OUT RIDER　組長不定期連載　毎月1日発売

ハシ宅。これがあの便所だ。ユニットバスだ。これでも きれいになったのだ。みんなで幸せを祈ろう

組長のお宅拝見。

組長のお宅拝見

49号橋本和昭の巻

実は組会エンンデューロ大会の帰り道、ほんの近所に住んでいるというハシの部屋に行って見たいというか怖い物見たさというか、ついでというか、とにかく勇気を振り絞って行く事にしたのである。

行く前の事前情報は主に127号金子氏によるものだったが、新聞雑誌で床が見えないとか、その層で年代がわかるとか、風呂場の壁一面にカビの花が咲いているというような感じであった。ゆえに少なからず危険を伴うのを覚悟しなければならないと思ったものだ。そのアパートは、利根川の北、川と平行して走る国道354号線沿いにあった。

関東平野のド真中、カラッ風が吹きすさぶ群馬県太田市、田んぼの中に住宅街と商店がまばらにある平地、アパートと旧街道をはさんだ向かいは酒屋というハシにとっては絶好のロケーション。鉄筋コンクリート二階だての二階、ハシの部屋は一番ハジ。おそるおそる入る。入らなければならぬ。

うおおおお。一見普通だ。何故か一緒に行った金子氏によれば「おお床が見えている」という感想。確かにビール瓶とインスタントラーメンと酒瓶は並んでいるものの床はある。右に便所付きの風呂、左に台所、奥が六畳の居間にベランダ。こたつの上に埃がたまっているものの、ベランダに植木その他のゴミは散乱しているもの事前情報で想像していたほどではない。

それというのもハシには最近、春がやって来て、どうやら少しずつ掃除をしているらしいのだ。それでも便所の洋式便座は相当てごわかったらしく、すごかった時の名残りをとどめているのであった。それにしてもまあハシのここに・・・・。組員諸君もハシが愛機ニコンF3で撮った春の写真がその焚火の前でお祈りするとか、自らの酔態を撮った写真が絶品だとかまあ色々あるけれど、ハシの末長い幸せを祈ろうではないか。

編集後記

太■デロックはまだ使ったことがない

地■後部座席は取っちし、ジムニーは二人専用♡

酔■今で春遅し、でも秋にはナナレイトを

税■昔の職場に行くために髪を切りましたん

毎■一年一本、私の骨はいつまで持つの

北■車一台バイク3台、私も燃費が悪い

チョロ■馬とスナックで身を持ち崩してます

阿■みなさんマークンと仲良くしてね

やなちゃんなんでも相談室

Q　野宿塾に参加したいのですが、実際どういうものなんでしょうか？

（板橋区の公務員　Kさんからの質問）

A　一人旅の出来る装備と心構えを持っている方ならば、年齢・旅の経験・ライテク等についての制限は一切有りません。メシ、酒についても「自分のものは自分で用意する」のが基本です。参加者の固定化がすすんでいるのは確かですが、あくまで一人一人の旅人の集まりなのです。なお、参加費として一万円頂いておりますが、これは将来『寺崎組』として本の出版等の活動をする為の資金、及び新聞発行費の補填の費用としてプールしております。一万円が高いか安いかの判断は皆様にお任せいたします。

平成八年度寺崎組宴会地

塾＝七月二七日正午集合
郡馬県沼田市関越道沼田インター出口

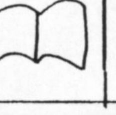
塾＝九月二一日正午集合
恵那市中央本線恵那駅南口

宴＝十一月二三日正午より
山梨県大和村湯の沢峠から黒岳方面へ登山

宴＝十二月二一日正午より
山梨県韮崎市小武林道青木鉱泉分岐近く

塾＝二月八日正午集合
静岡県富士宮市身延線富士宮駅北口

新聞講読料振り込み先



郵便貯金
記号 [redacted]
番号
氏名 寺崎　勉
住所 〒[redacted]
東京都国分寺市東元町[redacted]
スタジオエッグ寺崎組

組新聞講読料／年間　二千円以上